４、赤穂城跡追加編

　⑱「塩屋門跡（しおやもんあと）」

 こちらは、赤穂城の裏門、通用門で、塩屋門といいます。ここに、明治１０年頃の写真、があります。門を取り壊す前の写真で、赤穂市はいずれ、この写真を元に復元する予定です。写真の左の方に太鼓櫓（たいこやぐら）が写っています。門の前方、城の西になりますが、武家屋敷がありましたので、登城（とじょう）の合図を、太鼓で知らせたことでしょう。

 こちら、石の階段の上に緑色の石碑があります。良寛さんの短歌が書いてあります。良寛さんが岡山県倉敷のお寺（円通寺）から新潟県のお寺へ帰る途中、１７９５年頃、（良寛３７才）この門の西方１３０ｍにある天神さんで、一夜を明かしたときの短歌です。

 「やまおろしよ　いたくなふきそ　しろたえの　ころもかたしき　たびねせし夜は」

 意味は「山からの冷たい風よ、あまり吹いてくれるな、衣を敷いて野宿しているから」でしょうか。

　⑲「武家屋敷公園（ぶけやしきこうえん）」

 こちらは、侍屋敷として、昭和５８年（１９８３）に門と瓦葺き土塀（かわらぶきどべい）を復元し、内部は部屋の間取りを芝生（しばふ）で表現しています。浅野時代には、清水門のおさえとして、家老に準ずる坂田式右衛門（しきえもん、８００石）の屋敷がありました。

 ⑳「清水門跡（しみずもんあと）」

 ここには、清水門がありました。刃傷事件（にんじょうじけん）後の赤穂城明け渡しの時、大石内蔵助が最後に城を出たのがこの門です。

 門の外にはお蔵屋敷がありましたので、前に見える蔵のデザインで、現在赤穂市立歴史博物館（１９８９年建設）になっています。

 館内は、１階に「赤穂の塩」、２階に「赤穂の城と城下町」「赤穂義士」「旧赤穂上水道」を展示しています。

 ㉑「水手門跡（みずのてもんあと）」

 ここは、二の丸の南端に位置し、海に面した門で、前面には船着き場があり、波よけの突堤（とってい）が城壁から突き出しています。

 門の内側には、浅野時代の絵図に米蔵が３棟あり、船で米などを運び入れています。現在１棟を復元し、休憩所に利用しています。